

全歴研ダイジェスト

第一分科会

「**真実**は一つ、の筈…。」

↳総合的な学習への手掛かりを求めて

川崎高校 川 口 英 一

一 はじめに

小学校、中学校の先生方による充実した発表の後、少々恥ずかしい気持ちで発表の場に臨むこととなった。「総合的な学習の時間」を未だ実践していないので、今回は社会という教科、或いは世界史という科目の立場から、「総合的な学習の時間」に向けての私的なアプローチについて、教科学習における実践も含めて報告させていただいた。また、二日目は、第一及び第二分科会合同のパネルディスカッションにパネリストの一人として参加した。

二 格調高く(?)「史学概論」風の話をしてみたい方のために

「歴史とは?」、このような問いを生徒に投げ掛けてみたくなるそんな誘惑にかられた方も少なくないものと思われる。私もその一人なのだが、「歴史とは?」とあまり大上段に振りかぶってやるのは、どうも苦手なので、内容・時期・方法の三点に関して少しばかり工夫した実践事例を報告した。特に、方法に関しては作業や実習を入れるようにした。

実践例一 「本当の私は、どれ?」年度当初、最初の授業で教科担当の似顔絵を描かせる(小さな紙を配り、「私を描いて下さい」と指示)。次の時間にクラス全員が描いた多数の川口像を示し、「歴

史の史は公平中正な記録の筈なのに複数の肖像が描かれるのは何故?」「真に客観的な記録とは?」等について明の洪武帝に関する二つの肖像画などに触れながら解説。

実践例二 「真実は一つ、の筈…」漫画『あのねミミちゃん』(川崎苑子著 集英社マーガレットコミックス)の一話、ある日の事件に関する登場人物四人による四つの日記から、真実と思われる漫画のコマを切り貼りさせ真実の物語を再構成させる。その後「歴史像はこうして作られる」「真に客観的な歴史叙述は可能か?」「史料批判の必要性和そのポイント」「価値観の無政府状態に陥ることの危険性」等について解説。

三 総合的な学習の時間に向けて方法論の訓練として

総合的な学習の時間に対しては従来とは全く異なる授業、特に教科学習とは対立するイメージでとらえる方も多いようである。確かに、生徒の主體的な取り組みを重視するなど、到達目標を設定して知識を注入する教科学習とは異なる側面もある。だが、私はむしろ教科学習や教科間の連携、LHRや文化祭など学校行事との連携も視野に入れた取り組みを模索している。これまで「社会科の勉強は総合的な学習」という観点から生徒に様々な事柄に興味関心を持たせ、幅広い知的好奇心を刺激したいという気持ちで授業に取り組んできたつもりなので、教科を基盤、拠点として且つその枠を越えた「総合的な学習の時間」を組み立てることが可能ではないかと考えている。そして、この時間は生徒が主体的に情報を収集分析することが必要であり、このプロセスにおいて実践例二の実習も方法論を学ぶ訓練として位置付け活用できるのではないかと考えるのである。